



災害過程研究部門 副部門長

鈴木 進吾

すずき・しんご

博士（情報学）

専門分野 防災情報学

人と防災未来センター、京都大学防災研究所を経て、2015年防災科学技術研究所入所。2016年8月より現職。「地震10秒診断」をはじめ「YOU@RISK」などのリスク情報を活用した防災情報サービスとそのプラットフォームの研究に従事。国家レジリエンス研究推進センター研究統括、イノベーション共創本部等を兼務。

地震 10 秒診断

一人ひとりの地震災害時の生活を診断、備えにつなげる情報プロダクト

地震 10 秒診断とは

想定震度や発生確率などの地震のハザードに関する情報は、地震学の成果により高度化してきました。しかし、地震災害に一人ひとりが備えるためには、そのハザード情報が個人の生活に与える影響に関する情報や、具体的な備えに関する情報に変換して提供する必要があります。一般社団法人日本損害保険協会と開発した「地震10秒診断」は、災害関連データと個人の位置情報を組み合わせ、地震による個人の生活への影響を可視化することで、地震災害の「自分ごと化」、それによる防災意識の向上を目指しました。

地震 10 秒診断でできること

地震10秒診断は、誰もが簡単に診断できるようデザインされました。利用者はスマートフォンやタブレット、パソコンでアクセスし、スタート画面から「現在地で診断！」ボタンをタップするだけです。タップすると、利用者の位置を含む250mメッシュの、地震予測（今後30年間で3%の確率で見舞われる震度と、その震度以上の揺れに見舞われる確率）、ライフラインの停止日数（停電、ガス停止、断水）、建物被害率（全壊、火災）が表示されます。また、ライフライン停止による生活支障やその生活に必要な備えを表示することもできます。さらに、条件や場所を変えて診

断し直すことで、生活の拠点となる場所の地震のリスクへの理解を深めることができます。

分野を超えたデータ連携で備えにつなげる

地震10秒診断は、防災科研が提供する「地震ハザードステーション (J-SHIS)」の確率論的地震動予測地図、「あなたのまちの直下型地震」の被害関数を組み合わせることで実現しました。地震、ライフライン、防災対策のそれぞれの専門家のデータを個人に合わせてつなげることが、今後、一人ひとりの防災基礎力を向上させていくために重要です。地震10秒診断は、2020年8月末の公開から2021年1月まで、全国で112万回を超える診断がなされました。ぜひ、お試しください。ぜひ、お試しください。



図 地震10秒診断の診断結果のパソコン表示画面